

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4093300079		
法人名	社会福祉法人 北筑前福祉会		
事業所名	宗寿園グループホーム愛々		
所在地	福岡県宗像市稲元5-2-2 (電話) 0940-33-3008		
自己評価作成日	平成 22 年 10 月 4 日	評価結果確定日	平成 22 年 12 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・同じ敷地内にある、福祉センター「宗寿園」の行事（カラオケや舞踊の発表会等）に月1~2回参加して楽しんでいる。福祉センターを利用する近隣の方との交流の場ともなっている。
・年に1~2回、マイクロバスを使った外出行事「バスハイク」を企画、ご家族にも参加いただき、親睦の機会となっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 22 年 10 月 20 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、1階はデイサービス、2階は認知症対応型のデイサービスが併設されている。また敷地内には行政から移譲された老人福祉センターがあり、現在も地域住民に利用され、利用者と地域との交流の場となっている。法人理念である「共生」を基とし、地域との交流を図りながら利用者と共に笑顔で楽しく暮らすことを事業所の理念として、職員は個別ケアに力を注ぎ、日々のケアの実践に努めている。母体法人は様々な介護事業を展開し、職員の育成や利用者及び家族等の相談から問題解決まで、それぞれの事業での経験を活かし、あらゆる事態に対応できるよう一体となって取り組んでいる。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念である『共生』を基本とし『素敵な笑顔で和気愛々！』を運営方針に掲げ ①思い出作り ②美味しい食事 ③健康で楽しく を目標に実践している。	法人理念に地域密着型の視点が含まれ、理念の一部として実践している。管理者と職員は、ミーティング等で理念の実践に向けて話し合い、地域との交流を深めるよう取り組んでいる。	理念をより具体化するために、現在行われている地域に密着した利用者のケアの視点をふまえた理念を再構築してほしい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の実践を家族の面会時や施設見学、実習受け入れ、ボランティアの受け入れ等を通じて見ていただいている。	行政から移譲された老人福祉センターを事業所と同敷地内で法人が運営し、そこで行われる地域住民の活動に利用者が参加したり、事業所主催の行事に地域住民を招く等の交流がある。また、近隣幼稚園からの慰問や中学校から職場体験、ボランティアの受け入れ等、近隣住民との交流を図っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関しての相談、助言を求められた場合、ケースに応じた対応を行っている。また、定期的に認知症に関する講演会を企画している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、活動報告を行っている。そこで得た意見を後の活動に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、利用者やサービスの実際、活動状況等を報告している。委員からの意見により、事故防止の取組みとして居室にセンサーを設置する等、意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1度「地域密着型サービス事業所連絡会」に参加しており、連携をとる機会となっている。	行政がリードし運営する事業所連絡会に参加し、市を交えての勉強会や情報の交流を行い、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。また、消防団との連携を図るため担当課へ相談する等、日頃から行政との協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より話し合いをし、職員間の連携を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルがあり、管理者及び職員は、マニュアル等を通してケアの実践に取り組んでいる。外出傾向にある利用者に対しては、法人併設施設職員の協力も得て、見守りや付き添いを行っている。	今後、より一層身体拘束に関する理解を深めることができるよう、全職員が身体拘束に関する内部・外部研修へ参加する機会を設けてほしい。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	支援のなかで、気付いたことがあればその場で話し合うようにしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なときに話ができるようにパンフレットを用意している。	利用者・家族等には、契約時に制度に関して説明を行ってる。パンフレット等がある。職員に対し、権利擁護に関する研修の機会はない。	全職員が権利擁護に関する内部・外部研修へ参加する機会を設け、理解を深め、いつでも家族等へ情報提供できるようにしてほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分に説明を行ない、理解を得られた上で契約を結んでいる。不安や疑問を解消出来るよう、その都度対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの声や動き等によるサインを汲み取れるように心掛けている。苦情受付を設け色々な意見を聞けるように努めている。	職員は、利用者の希望等を日々のケアの中で表情や気づきを大切に思いを汲み取るよう努め、家族等へも積極的に声かけして聴取するよう努めている。また、運営推進会議に家族が出席し、意見箱を設置する等し、希望にそって外出の機会を増やす等、運営に反映させている。事業所以外の第三者相談窓口は、契約時に説明している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングにて話し合いの機会が設けられている。	事業所は、会議や個別面談等の機会を通して、職員の課題や悩み等を聴取している。また「希望調書」という形で異動についての意向を聴取し、日頃から意見が言いやすい雰囲気づくりに努めている。職員の意見で介護用具を購入する等、運営に反映されている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己評価の提出を行ない自己アピールが出来る場を設けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとしして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたって、性別や年齢等で排除はしていない。職員についても、個人を尊重している。	職員の採用にあたっては、性別や年齢等の理由で排除しないようにしている。また本人の能力が発揮できる職場環境を目指し、職員が資格取得できるよう支援している。定年後に嘱託制度があり、本人が希望すれば引き続き働ける環境を整備している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	機会あるごとに人権を尊重し、敬いの気持ちで介護を行なうように指導している。	人権に関する内部研修に一部職員が参加し、他の職員へ伝達している。人権に関するテキスト等がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、研修や講演会の案内を掲示し、法人内外の研修を受ける機会が設けられている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度「地域密着型サービス事業所連絡会」に参加しており、連携をとる機会となっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、ケアマネジャーが主となり、それまでの本人の生活背景を考えながら、本人の意思を尊重し話をするようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からは、十分に話を聞き今の状況を把握するとともに、思い・訴えを受けとめるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じた支援が出来るようにアドバイスを行なっている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方向の関係で支援するばかりではなく利用者から学ぶ姿勢を忘れず信頼関係を大切にして関わっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の思いを伝え、家族からの思いも伺いながら一緒に本人を支えていくという協力関係を作っていくように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、手紙・年賀状などを送り、良い関係を継続できるよう支援している。	職員は、利用者の馴染みの人や場所を把握している。趣味を通じて地域のサークル活動への参加や、知人との電話や手紙での連絡を取り持つ等、利用者が地域や知人等との関係を継続できるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	料理作り等の機会に体験や思いを話していただくように関わっている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先への面会、死去された際のお通夜又は葬儀への参列を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の希望を汲み取るように声かけを行っている。また、本人の様子からも意向の把握に努めている。	職員は日々の関わりの中で、利用者の表情や行動、しぐさ等から本人の思い等を推し測り、また声かけして希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者は、生活歴や家族来訪時等に情報を得て、本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、家族にセンター方式の書類を記入していただいている。また、面会時にお話を伺いこれまでの生活環境の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録の記入及び申し送りにより、職員間で情報を共有しながら、暮らしの現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を使用し、本人・家族の意見をもとに、話し合いにより介護計画を作成している。	利用者、家族、職員、医師の意見を反映した個別具体的な介護計画を作成している。3ヶ月に1回また状態の変化に応じて、現状に即した介護計画を見直している。介護計画作成後は家族等へ説明し、署名・押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランに沿った支援の取り組み・結果・気づきや工夫を毎日ケース記録に記入している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせ、外出や外食等希望に沿うように支援している。その他要望に応じて柔軟に対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアセンターに登録している方の訪問など地域資源を活用させていただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族が希望する医療機関に受診対応している。基本的に受診は家族が行なっているが、必要な方は、職員が受診に付き添い、本人の状態を報告し相談している。	本人及び家族等の希望を大切にし、今までのかかりつけ医や希望する医療機関での受診を支援している。受診時の通院介助や情報伝達の方法について話し合い、合意している。家族等の状況に応じて、臨機応変に支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ連絡・相談・報告を行ない、連携を図っている。医療連携体制をとっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は日常の情報を提供し、主治医や病院と連絡を密に取り、早期退院に向けて話し合いを行なっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関と連携を図り、事業所でできる範囲での対応を行なっている。	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針があり、利用申込時に利用者や家族等へ説明し、同意を得ている。状態が変化した場合は、その都度、本人、家族、医師、職員、関係者等で対応を話し合い、合意のもと全員で方針を共有し、支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、目のつくところに用意している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を随時実施している。消防隊員、地域の消防団の方々と共に、夜間想定避難訓練を実施した。	マニュアルを整備し、年2回、消防署・行政職員・消防団の協力を得て、消火訓練、緊急通報、避難訓練を実施している。非常用備品は、飲料水1日分を準備している。	災害に備えて、併設施設と話し合う等し、非常用食料・飲料水・備品を準備してほしい。
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持って、丁寧な言葉を使うよう心がけている。また、利用者の立場に立って考え、プライバシーが守られるよう気をつけている。	管理者は、職員の言葉かけや対応について、利用者一人ひとりの誇り等を損ねないよう日頃から指導している。プライバシー確保について内部研修を行い、職員の意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい説明を行ない、自分で意思決定ができるように支援している。又、意志が聞けない場合、利用者の立場になって考えるように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り本人の意思を尊重し、その方のペースでその人らしい暮らしができるよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、おしゃれにも気を遣っていただけるようにさりげなく声かけしたり、支援している。理容・美容は出張サービスを利用したり、行きつけの店に家族と一緒に行かれたりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけをなるべく一緒に行ない、役割をもっていただくようにしている。職員も利用者と一緒に食事をとっている。		
				職員と利用者は、一緒に準備や片付けを行っている。職員は、利用者と同じ物を同じテーブルで会話をしながら、食事が楽しめる雰囲気作りに配慮している。献立は、母体法人の管理栄養士が、利用者の嗜好を考慮して作成している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作り、カロリー計算をしている。水分・食事チェック表を用い、摂取記録をとっている。その方のペースできるように支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、必要に応じた介助を行う。又、義歯は洗浄剤を使用し、消毒も行っている。訪問歯科による口腔内チェックも行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要によっては、排泄チェック表を使用し、本人の尊厳をまもれるようなケアを検討し、支援している。	職員は、利用者・家族等の要望を聴取し、利用者一人ひとりのサインを把握してさりげなく支援している。排泄チェック表を作成し、常に排泄の自立を意識したケアを心がけている。失禁の際は、本人の自尊心を傷つけないよう声かけ等に配慮している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のために、水分を多くとっていただけるように工夫している。便秘時には、腹部マッサージを行ったり、薬の調整が必要かどうか家族、看護師と相談をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	本人の体調や希望に配慮し、入浴の声かけをおこなっている。清潔を保てるように、楽しく入浴できるように支援している。	利用者一人ひとりの希望や状況等に応じて、いつでも入浴できるよう支援をしている。入浴拒否の利用者へは、タイミングを計り、声かけ等を工夫して、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や本人の状態を見て、休息の声かけを行い、安心して休んでいただけるように環境整備を行い、支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表をもとに、薬の目的や副作用・用法や用量についての把握に努めている。必要時は、看護師が説明・指示をだし、速やかに情報を共有している。介護職員も観察を行い、経過を看護師に伝えている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好まれる活動、生活歴を把握し、本人の力を活かした役割がもてるように支援している。行事やレクリエーション、外出や散歩、歌、裁縫等の活動を提供し、ふき物やたたみ物が役割になっている方はすすんで取り組まれている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の周りを職員と散歩したり、買い物に行ったりと、利用者の気分や訴えに応じた支援を行っている。	利用者一人ひとりの希望や天候等を考慮しながら、散歩や買い物、ドライブ、外食等支援している。季節の花見やみかん狩り、バスハイク等、普段は行けないような場所への外出は、家族と協力しながら支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所管理としているが、少額の現金を手元に所持している方もいる。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、電話の取り次ぎを行っている。手紙やはがきも本人の希望があれば、書くことができるようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時には音楽を流して、くつろいで頂いている。また、花や写真を飾っている。	共用の空間は、ソファ等を配置し、利用者の日々の活動写真や観葉植物・季節の花を飾り、生活感や季節感に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやイスを置いている。自由にゆったり過ごせるような居場所づくりに努めている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した上で、家族の協力を得ながら、使い慣れた家具や本人の好まれるものを置いている。本人が安心出来る環境づくりに配慮している。	居室には、利用者や家族が選んだ新しい家具や使い慣れたラジオ、時計、冷蔵庫等を持ち込んでいる。また、利用者の馴染みの物や家族写真等を飾り、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮して、手すりの設置や段差のがされている。また、利用者の状況に合わせ、バスボード、ポータブルトイレの活用等、自立に向けた支援を行なっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない